

NORBU のブータン話

西浦 信幸

(18 - 1, ブータン, 小学校教諭, 墨田区立横川小学校)

みなさんおはようございます。それでは初めに自己紹介したいと思います。私生まれも育ちも葛飾柴又の近く、下町出身の西浦信幸といいます。今墨田区立横川小学校というところに の後に戻りまして、3 年 1 組の担任でやっともうすぐ 1 年が経とうとしています。アズマ橋の近くですので、もし近くにお寄りの際は皆さん是非、墨田区立横川小学校に遊びに来てください。名前のノルドーなんですけど、私ノブユキといいます。その名前を初めてブータンという国の方にお会いした時に、君の名前はノルドーといってすごくいい名前だぞということを教わりました。ノルドーというのは。

では、ここでクイズを出します。ノルドーというのは宝石・宝玉という意味で、それでブータンの国旗にも出ていまして、とても大切になされるそうで、自分はそんなに大事な物ではないんですけど、嬉しいなと思いました。

話をどんどん続けさせていただきます。まず、なぜ協力隊ということでオカシマ校の校歌に「 」という歌詞がありまして、その歌詞を見て横川小学校にいた時になんかひらめいてしまいました。昔は海外に行ったりしてお仕事をしてみたい、そして困った海外の子供たちのために人生の中で少しでも働いてみたいと思いました。それがもう私 40 になって、40 目前でやっぱりやらなきゃいかんということでひらめきまして挑戦してみようと。

面接ではですね、そちらにいらっしゃる 先生とご一緒だったこともたしかあったかとおもうんですけども、個人面接であなたは仕事を辞めようとしてませんか、私は今年で 18 年目なんですけども、仕事に疲れてませんかとか、仕事を辞めようと思ってませんかなんていうことも聞かれまして、その時僕は答えました。僕はこの仕事に向いていると思います、なんて格好つけて言ってしまったんですけど、そんなことでなんとか受かりまして、一度しかない人生だから 2 年間くらい世界の中で暴れてきてもいいだろうということで挑戦することにしました。隣に書いたのが卒業生に送った言葉で、こうやって生かされているからにはなにかできるんじゃないかというようなことを 2 年前の に、日本の教え子の人たちに送らせていただきました。

では、ブータンについて紹介したいと思います。ブータンはヒマラヤの仏教王国でこの？にも出るので皆さんすごくご存じだと思うんですけど、とても自然の美しい国です。花鳥風月、本当に花が綺麗ですね。今後ろにいらっしゃる隊員の石井さん、帰ってこられた石井先生も、よく一緒に山を歩きましたが、本当に花が美しい国で、鳥の鳴き声で朝目が覚めます。私の場合は鳩だったんですけども、いつも鳩が家の窓にとまって、目が覚めました。風の音が聞こえます。風の音、なかなか日本にいと感じられること少ないんですけど

ども、風の音を感じました。そして月も綺麗でした。

けれども、犬がたくさんいます。ロチというのはブータン語で犬という意味で、本当に犬怖いです。毎年隊員の人も噛まれています。私も何度も囲まれたことがありますが、大体どこの国でも似たり寄ったりの危険はつきまといますので、さきほど 先生もおりましたが注意が必要だなと思いました。ちなみにブータンでは（犬を追い払う際に）シッシと言わないで、チッチと言うんですね。チッと言うと多分後ろまでよく聞こえるんじゃないかと思うんですけども、これ子供を追っ払うときなんかにもよくチッチと言って子供たち寄ってくるなというような感じでよく使われていました。

衣食住を？ということで、僕が着ているのがブータンの民族衣装のほうで、これがこちらでの背広と同じです。これがすごく向こうでは正式、正式にはこれにもうひとつマントみたいのを被るんですけども、これも失礼のない服装と言われています。ちょっとミニスカートみたいな感じで、すね毛とか出て恥ずかしいんですけども、ハイソックスをはいています。こんな感じで。でも脱ぐと結構大きいんですね。学校でも子供たちに紹介するときにはこんな衣装を着て紹介させていただいています。

激辛、有名な話ですが、女性はまたケラ（？）という衣装があるんですけども、ブータンの食べ物は激辛で困りました。本当に辛いです。これに耐えて慣れていかないとなかなか暮らしていくことは難しいかな、ブータン人の人と仲良くやっていくのは難しいかなと思いました。けれども、だいぶ最後のほうには慣れまして、今でもやめることなく七味唐辛子をたくさんかけて食べるようにしています。

仕事は向こうの小・中学校一緒になったような学校、幼稚園クラスからあるんですけど、そこで主に体育を教えていました。体育といっても結構休む先生も多いので、急遽休む先生の補強というんですか、向こうの言葉でいうと **substitution** もかなり多くて、教室でいろんなことを教えることも多かったです。なかなかコントロールが難しかったですね。でも子供たちがとても良くしてくれて、楽しく勉強してこれたかなと思います。

日本の学校と似ていてびっくりしたことはやっぱり、ちょっと言葉を恐れず言うと **dangerous mother** が多かったということで、おばちゃん先生、そういった女性の先生がすごく多くて、教育を、ブータンを支えているのは女性、特に初等教育を支えているのはやはりこういう女性の先生の力なのかなと思ひまして、すごく似ていたのでびっくりしました。また、そういう方にすごく親身に面倒みてもらうことになりました。プライベートということで卓球をやっている、なんと、ちょっと卓球で自慢させてください。ブータンチャンピオンになってしまいました。卓球で、ダブルスなんですけど、ブータンチャンピオンに。とまあブータン選手権といっても町の、昔の卓球場あるじゃないですか。昔の方は覚えているかと思うんですけど、町で 100 円・200 円払ったら打てる卓球場。あんな感じでやっていたのでそんなに大したことないんですけど、でも卓球を通して交流ができたんじゃないかと思っています。こんな感じでやっていました。

本はたくさん読みました。よく本のお話をさせていただいて、とても読書をする時間が持

てました。

旅がすごく好きなのでブータン国内を、そしてインドなどを旅して、健康を考えたかなと思います。　　ですごく便利なところは、この袋の中に色々ともものが入るので、いろんなものを出せるとかいいと思います。

今日の話では主にブータンでの出会いについて話していきたいと思います。青年海外協力隊員の仕事や学校のことなど、ブータンの学校などについてはこの後午後、ブータンから帰ってきた北海道の石井洋先生のほうが詳しくお話してくださると思いますので、そちらのほうを是非皆さん聞かれてきてください。美人　　さん、一番の親友　　さん、この後写真映します。日本語を教えた　　さん、バドミントン、朝からバドミントンをしました。体育館がないので外でやりました。なくなってしまった　　ということで、そんなブータンでの　　、　　、他の隊員の仲間、応援して下さった先生方、家族ということでこの後話していきますが、写真を　　したいと思います。

まずこれがブータンの学校での記念撮影で、この方が友達の事務員の　　さんという人でいつも仲良くしていました。私が持っているのがチリ　　と言いまして唐辛子の　　ものです。それがとても辛いんですけど、向こうの人は普通にティータイム　　。ブータンの人たちはとても英語がうまいので、英語の先生は多いですね。

そうだ、ブータンクイズを出すのを忘れてました。すみません。ここでブータンクイズを少し出したいと思います。私、英語もブータン語もほどほどだったんですけど。どこの国でもそうだとは思いますが、ブータン語は意外とジェスチャーが上手で、山の国なので、遠くの人に伝えるために特にこれを使います。(手を捻る)さて、これは、なんでしょうということですが、これは、「それ、何?」「どこいくの?」なんでというときには、何でも使えます。あと、向こうにいつて変わったのは、日本人なら「イエス」というときに、首を縦に振りますが、インドやブータンでは、「イエス」というとき首を横に振ります。最初は、なんでかなと思っていましたが、帰国する時には、自分もそうしていました。こんな感じで挨拶をするので、多分街でそういう友達とかに会ったとしたら、その人は、インドや、ブータンの国から暮して帰ってきた可能性が高いです。

この人は、すにえさんといって今、日本に留学に来てまして三重大大学の大学院で勉強しています。時々会ったりして一緒にお酒を飲んだり、話をしたりしています。子供が、こんなちっちゃい子供が生まれたのですごい大変でした。トータル 6 ヶ月ぐらい断水がありまして、水がないのにすごく苦労しました。これはどこの国でもそうだと思いますが、海外に行くと水ってすごく大変だなと思いました。

これはチャンガン小中学校の子どもたちです。この子が亡くなってしまったタシオ君って言うんですが、去年の正月に亡くなってしまったんですけども、とても仲良くしてたのでお葬式やお通夜に行ってかわいそうだなって思ったんですけども、ブータンの人の考え方なんですけども、不思議なことに、亡くなってよかったって向こうの人は言うんですよ。なぜかって聞いたら、もう生まれ変わってるっていうことを言うんですよ。仏教の考え

方だと思うんですけど、ブータンの人はどうしてこういう風に考えるのかなって、どうしてこういう生活なのかなっていうのをよく考えたほうがいいのかなと。どの国に行ってもそうだと思うんですけど、自分なんかはチベットやブータンについての本なんかを読んで、どうしてブータンの人がこう考えるのか、どうしてこう生活するのかっていうのを考えながら生活、生きていたと思います。そうすると、一概におかしいんじゃないのっていう風にはならないじゃないのかって思って、海外に行くときはこういうのは普通なのかなって思って自分では思っています。

卓球部の仲間ですね。今卓球を頑張っています卓球部のみなさんです。本当に卓球部の人達との交流は楽しかったですし、これから、来年の横浜の世界選手権に、子どもたち。たぶんこの子かこの子が来れるかと思うんで、応援に行けたらいいなって思っています。

真ん中にいる石井さんですね。こんな感じで何と北海道の盆踊りを、北海道の子どもたちが知らないという盆踊りを石井先生は教えてくださいました。

今、ブータンで一番有名な日本人、関大（せきたい）ですね。こういう仲間がいて、この人は本当にブータン語が上手で、やはり言葉は大事だなと、僕はあまり上手ではないんですけど、特にブータンではみんな英語が上手なんですけども、英語、造花、それからブータンの言葉、ブータンの関西弁、そして、様々な、ネパール語、ヒンディー、英語は挙げましたね。だいたい一人五つぐらいの言葉を話せますので、私たちも早く語学の勉強をもうちょっと、自分もやっておけばよかったなと反省しています。この人は造花や向こうの言葉が得意なんで、これから英語は大事なんですけども、現地の言葉っていうのは大事なのかなって、向こうの人は喜んでくれますので、そういうことを感じています。

これは家族で。家族も来てくれました。このグラウンドでサッカーした後に撮ったんですけども、思い出の一枚です。

これはちょっと自慢で有名な人と一枚。この人です。中田さん。中田さんですね。サッカーの、ブータンに来まして、中田さんと結構話をさせていただきました。この人が国連で勤めていらっしゃる田中さんと言う方なんですけども、すごくお世話になりました。サッカーの中田さんとも結構話す機会がありまして、何とか笑わせようかと思ったんですけども、無理でした。質問でいい答えがあったのは、語学の習得法はありますかって聞いたから、やはり、発音を真似ることだねって言うていました。あとは、野菜は苦手だそうですね。

ブータンで学んだこと。すみません、その前に忘れていました。今一番後ろに座ってらっしゃる墨田区の桑原先生にもブータンに来ていただきまして、授業までしていただきまして、そして、他にも来ていらっしゃる先生がブータンで美術、図工の授業もしていただきまして、体育も大事なんですけど、体育、図工そして音楽といった情操関係がこれからは大事なのかなということで、今取り組まれていると思います。たぶんこの後、石井先生からお話があると思うんですけど、評価の問題も大事なのかなとブータンでは私たちは思いました。ブータンで学んだことということで、「孤独と退屈に耐える」。これはブータンで

尊敬してた先生から、ツガさんって方から教わったんですけど、孤独と退屈に耐えることは大事だと。向こうで生活していければ 50 点、友達が出来れば 70 点、80 点。最後に何かちょっとできれば 100 点満点だというようにして励ましてもらいました。ブータンは仏教国ですので、やはり仏教に少し興味を持って、ちょっと勉強してみました。「四苦八苦」と言われますが、八苦の方が不思議だなと思ひまして、例えば、愛している人と別れなければいけない悲しみとか、憎たらしい人とも会わなければいけない悲しみなどがあって、少し気楽に生きられるようになったかなと思います。そういうことで「人生に無駄なことは無い」と思ひました。「足るを知る」ということで、ブータンなどの人、発展途上の人、ある程度貧乏ですし、適当なんですけども、ハッピーに生きていますね。だから、目の輝きとか、それから、表情とかね、そういうのをスマイルっていうんですか、そういうのを身につけていきたいなと、自然にできるといいなと思ひました。「教育は人なり」。やはり、授業は大事なんですけども、一人一人の子どもの名前を覚えて、そして、子どもの名前を呼んであげて、元気かと、頑張れよというようなことが私たち教師の仕事じゃないのかとすごく向こうにいつて再確認させてもらひました。やはり段々一年過ぎる頃からブータンの人の名前、同じ人の名前、例えば、ゼニチョキ A,B,C とかいたりして覚えにくかったりするんですけども、だいぶどんどん子どもたちの名前が、たぶんここにいる先生方もそうだと思うんですけども、名前が頭に入ってくるんですよ、どんどん。その子がやっていることやその子の表情などがどんどん浮かんでくるようになって来ました。やはり、このように子ども名前を覚えてあげて、呼んであげて、励ましてあげるということが一番大事なんじゃないかなと原点に帰らせていただきました。そして、「火・水・日の有難さ」。火は暖かくていいですね。本当に隙間風が吹いていて、冬は家が寒くて辛かったですね。逃げ場もない寒さでした。そして水。水がないと体までちょっと乾燥してきますので、女性の方気をつけてください。本当にあの、かかとが割れて、手が切れて、あまり経験がなかったんですけど、そういうことがありました。そして、太陽の光が当たるととても暖かいです。太陽の光っていうのはすげーなと、すごく感じます。それから、これは JICA のブータン所長から褒めてもらったことなんですけど、「ピンチになるとアイデアは閃く」ね、ということで、ピンチになると、それを考えていると、何かアイデアが閃いてくるんじゃないかなと思ひました。例えば授業で言うと、一斉授業はすごく難しい。どちらかというと、途上国の子どもたちには。ということで、一人ずつ見ていくしかないんじゃないかとことで、よく中学校とかで使われているかもしれませんが、ちょっと体育でもテストしたりして、評価してあげると、縄跳びとかに取り組み始め練習に励むようになりました。このように色々なアイデアが浮かばなくなったとき、この仕事は結構アイデア勝負なところがあると思うので、そういうのが大事かなと思ひました。最後に「国際協力は誰でもできる」ということを考えました。僕みたいな普通の、ごく普通の教員でもできるんだと、誰でも出来るんじゃないかとみたいな、気軽な気持ちにはならせていただきました。

帰国後ですね。帰国後、横川小学校での活動ということで、このような格好で最後歌を

歌ったりして、帰国報告会の方をさせていただきました。そして、総合的学習の時間にブータン話などをさせてもらいました。ブータン話で一番子どもたちに受けたのは、ブータン語といって、結構他の国でもやってと思うんですけど、ペットボトルなどの水を飲むときに、口をつけないで、こう飲むんですけども、これがとても受けまして、このようなことを紹介して子どもたちとこうして世界の子どもたちは生活してるんだよという話をさせていただきました。それから、学校公開や道德の授業などでも話をさせていただきます。保護者会でも毎回少しずつですが、紹介させていただきました。

その他の活動として、三重大学の大学院に留学。さっき紹介したスニールさんっていう人と交流していきまして、今年で彼も卒業だと思うんですけども、ブータンに帰ってからも仲良くしていけたらなと思っています。まず、卓球コーチの人との交流とやり取り。向こうで芸術、美術を教える方、美術家の方とも交流があって、何とか今後子どもたちを通して交流ができればなと思っています。現ブータン隊との交流ということで続きます。さっきもお話でありましたが、どうやって今後日本に子どもたちとブータンの子どもたち、日本の先生とブータンの先生をつなげていくことが私の使命というか、今後の仕事なのかなと思って、何とか色々なアイデアを浮かべさせながら頑張っていきたいと思っています。

最後の前に国際協力ということで、チベット世界、ブータンで有名な絵を紹介したいと思います。日本の桃太郎に似てるんですが、一番下に象が描かれています。そして猿、ウサギ、そして鳥。そして、この四つが、違う動物なんですが、協力して果実を得るというか、ゲットする。そのようなことで、キバグシーと言われてまして、チベット世界でも有名な絵です。協力を表すことを象徴することで、ダライラマなども紹介したらしいんですけど、教室に貼ってあるんですが、尊敬と感謝の協力だよということをいつも話しています。

(歌) お父さん、お母さんいますか？お兄ちゃん、お姉ちゃんいますか？

恋人いますかってことですね。ということです。すみません。これで終わらせていただきます。ありがとうございました。